通信教育課程におけるブレンディッドラーニングの試行について

田畑　忍
Email: tabata@edu.tamagawa.ac.jp

玉川大学教育学部教育学科通信教育課程

◎Key Words　ブレンディッドラーニング、通信教育、グループ学修

1.　はじめに

玉川大学通信教育課程では、印刷教材等による授業（以下、テキスト学修）と面接授業を行っている。今年度は新たな試みとして、メディアを利用して行う授業（以下、メディア授業）と面接授業を組み合わせたブレンディッドラーニングを試行中である。試行中の科目は「教育の方法と技術」で、メディア授業では、学生は科目の基礎的な内容を学修する。メディア授業では、授業動画を視聴した後、学修内容の理解を確認すること等を目的に小テストやレポート作成等を課すケースが多い。今回の試行では、各回の学修内容の要点などを振り返りシートに短くまとめる学修等を課している。また、面接授業前に、無作為にわけたグループ内で、メンバーの作成した課題についてコメントし合う場を設定している。面接授業では、学生は、メディア授業で学修した内容について実践的・発展的な内容を学修する。なお、本稿の執筆時はメディア授業の実施期間中であるため、試行結果については発表時に報告する。

2.　メディア授業

メディア授業は、ブレンディッドラーニング 15 回のうちの 7 回分である。授業動画の視聴期間は 1 か月間であり、授業動画視聴後、メンバーの作成した課題をコメントし合うグループ学修の期間は 1 週間である。なお、メディア授業の期間中、学生は教員にいつでも質問できる。以下では、授業動画と学修課題、グループ学修について説明する。

2.1　授業動画

授業動画については、本学のスタジオで撮影した。

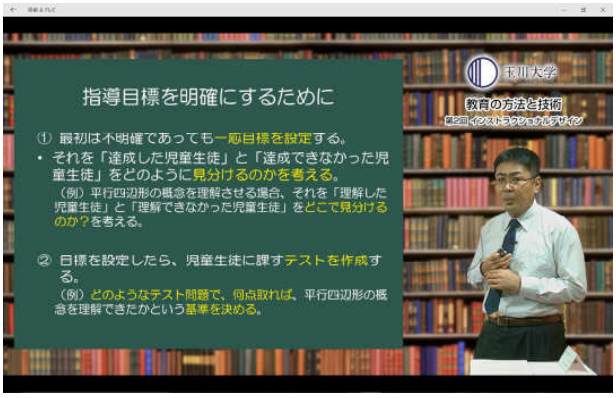

図 1　授業動画の例

各回の授業動画の時間は、授業動画の視聴中に学修する課題の時間を除いて平均で 27 分である。授業動画は図 1 にある通り、教員の横に PowerPoint のスライド（以下、PP スライド）を大きく映す形にした。クロマキー合成をするため、今回は、緑色のスクリーンに、授業動画の PP スライドとほぼ同サイズの PP スライドを薄く投影して撮影した。これにより、編集後の教員の目線や手による指示等が撮影時のものとほぼ同じになる。授業動画の作成にあたり、もっとも苦労したのは著作権の処理であった。これについては、本学通信教育課程事務部のブレンディッドラーニングプロジェクトチームのメンバーと協力し対応した。なお、今回は撮影と編集を外注しため、授業動画の編集途中の意思疎通が十分に行えなかった。そのため、アニメーションのタイミングが合っておらず編集をし直したり、別の部分では撮影をやり直したりすることもあった。

2.2　学修課題

今回の試行では授業動画を視聴後、学修内容の理解を深めるために、①テキストの対応部のチェック、②レポート作成、③学修内容のまとめ（振り返りシートの作成）を課している。①②については、授業動画の視聴後に、どちらか一方または両方行う。③については、各回の学修を終えた後、毎回、学修した内容のまとめと、学修内容について考えたこと、疑問に感じたこと等を記入する。教育の質保証の観点からも、メディア授業では、授業動画の視聴と学修課題を合わせて、1 回につき 100 分の学修時間を確保する必要がある。そのため、今回の試行では、①の課題についても多く取り入れた。なお、図 2 は教育サポートシステム [1] にお

図 2　メディア授業のトップ画面

けるトップ画面である。学生は各項目について、上から順に学修を進める。

2.3 グループ学修

今回の試行では、無作為にわけたグループ内で、メンバーの作成した振り返りシート（2.2 で説明した③：以下、③）についてコメントし合う場を設定している。時期は面接授業の前で、グループ学修の期間は 1 週間である。グループ学修では、学生は各自、③を教育サポートシステムに登録する。学生は、グループのメンバーが登録した③を開き、コメントする。学生はメンバーのコメントを確認し、必要に応じて加筆したり、修正したりする。学生は③を印刷し、面接授業時に持ってくる。なお、このグループは面接授業時のグループでもある。学生は、教育サポートシステム上でコメントし合ったメンバーと面接授業で初めて会うこととなる。今回の試行でグループ学修を設定した主な目的は、「授業動画の視聴を確実にするため」「面接授業への動機づけ」の 2 つである。

3. 面接授業

面接授業（スクーリング）は、ブレンディッドラーニング 15 回のうちの 8 回分である。面接授業はメディア授業の学修内容をベースとし、実践的・発展的な内容を学修する。例えば、メディア授業の第 2 回では「インストラクショナルデザイン」、第 5 回では「学習指導案」、第 7 回では「授業における ICT 利用」を学修するが、面接授業の第 4 回（ブレンディッドラーニング全体の第 11 回）の「学習指導案の実際」では、メディア授業時に教員が学生に検索を指示した課題を持ち寄り、各グループで検討する場を設定する。また、その際、ICT を効果的に活用した授業実践の方法、学習指導案の作成についても検討する。

なお、本学の場合、従来の面接授業は

- 土日スクーリング…土日（各日 3〜4 限）受講して 2 週で 4 日間。
- 夏期スクーリング…1 日 1〜2 限受講して 6〜7 日間（1 回分の授業時間が他のスクーリングの授業時間とは異なる）。
- 地方スクーリング…1 日 5 限受講して 3 日間。

等の方法で実施していた。しかし、ブレンディッドラーニングの面接授業については、1 日 4 限受講で 2 日間となり、学生の面接授業時の経済的・体力的な負担も少なくなると考えられる。

4. 学修効果の検討方法

ブレンディッドラーニングの試行にあたり、本学でもっとも懸念されたのは教育の質保証についてである。先に述べた通り、1 日 4 限受講で 2 日間の学修で終えることのできるブレンディッドラーニングのメリットは大きいと考えられる。しかしながら、従来は上記のような日程で面接授業を行っていた。そのうちの 7 回分をメディア授業で行うことにより、教育の質が低下しては意味がない。そこで、今回の試行では、以下に示す方法で、試行するブレンディッドラーニングの効果を確認することとした。

- 学修内容の理解度について…以下の各試験において、試行するブレンディッドラーニングの期末試験と同じ問題を出題し、理解度を確認する。
  - テキスト学修の科目試験（2017 年度第 3 回科目試験で実施予定）
  - 通常の面接授業の期末試験（2017 年度春期スクーリングで実施済）
- 学修の取り組みについて
  - 教育サポートシステムのログにより、各学生の授業動画の視聴時間や繰り返し視聴した回数等を確認する。
  - 面接授業前のグループ学修のコメントの質を確認する。
  - 面接授業時のグループ学修の様子や成果を確認する。
- ブレンディッドラーニングの満足度について…面接授業の最終回に実施するアンケート調査により確認する。
  - メディア授業に関する内容
    - 授業動画の学修時間（量）等に関する質問。
    - 授業動画の実施期間等に関する質問。
    - レポート等の学修課題に関する質問。
    - グループ学修に関する質問。
    - 授業プリント等補助教材に関する質問。
    - 教員への質問やガイダンス動画等の支援体制に関する質問。
    - 学生自身の学修の取り組み等に関する質問。
  - 対面授業に関する内容
    - 学修内容に関する質問。
    - 学修時間に関する質問。

5. おわりに

今年度から試行を始めた、本学の通信教育課程におけるブレンディッドラーニングについて報告した。現在は、メディア授業の実施期間中であるため、ブレンディッドラーニングの効果については検討できていない。しかし、今回の試行の結果次第では、今後もブレンディッドラーニングによる授業を増やしてゆく予定である。学修効果等についてしっかり確認してゆく必要がある。

なお、今回は試行ということで受講者数を 40 名にしたが、ブレンディッドラーニングの受付開始日に 40 名を超える応募があった。最終的には受付開始日に 60 名を超えたため、受付翌日に応募の締め切りを受付画面で通知した。2017 年度の春期スクーリングでは、同科目の受講者数が 37 名であった。また、ブレンディッドラーニングの面接授業当日が、近隣県の公立学校教員採用選考試験（第 1 次試験）に重なっていたことから考えると、ブレンディッドラーニングでの受講を希望する学生が多かったことがわかる。

参考

(1) 日本システム技術株式会社（GAKUEN EduTrack）：http://www.jast-gakuen.com/edu/?p=get（参照日：2017 年 6 月 10 日）